

令和4年度 学 校 評 価 (総括評価表)

池田高等学校三好校

○スクールポリシー

【育成をめざす資質・能力に関する方針】

- (1) 地域産業の担い手, リーダーとして必要な力を育成します。
- (2) 感受性が豊かで, 自他と自然を大切に考え, 行動できる力を育成します。
- (3) 課題解決に向け, 周りの人と協力し, 粘り強く取り組む力を育成します。
- (4) 自ら学び, 主体的に挑戦する力を育成します。
- (5) 自らの特性を知り, 将来設計に生かすキャリアプランニング能力を育成します。

【教育課程に関する方針】

- (1) 地域の農業, 林業の活性化を目指した学習を実践します。
- (2) 地域・企業・大学等と専門性を生かした連携活動を実践します。
- (3) 地域の農産物等を利用した6次産業化商品の開発に取り組みます。
- (4) 体験的な学習を重視し, 知識と技術の確実な定着を図ります。
- (5) 「わかる授業」「振り返り学習」を通し, 「確かな学力」の定着を図ります。
- (6) 学校生活では, 社会人としての必要な礼儀やマナーなどを重視します。

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
学力の向上	(1) 学習意欲を育み、基礎学力の向上を図る(教務課、進路指導課)	(1) 各教科の指導力向上を図り、魅力ある授業づくりに努める。	①生徒の授業満足度 80%以上 ②ICTを活用した授業 1人3回以上 ③電子黒板の授業での活用授業での活用率 50%以上 ④職員研修の実施 -1 研究授業 1回以上 -2 教員間の授業参観 2時間以上	①授業満足度調査を行い、各教科の授業づくりに生かす。 ②電子黒板やタブレットを使用した授業を展開する。 ③毎月活用状況調査を実施し、全職員に結果報告を行う事で、使用を推進し授業改善につなげる。 ④-1 研究授業を実施し、研究協議を行うことで授業力向上を図る。 ④-2 授業参観週間を設定し、教員相互の意見交換を行うことで、よりよい授業改善を図る。	①評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。1月に授業満足度調査を実施した。 ②電子黒板やタブレットを使用した授業を積極的に展開した。 ③各科目でICTを使った授業調査を月1回実施した。 ④-1 研究授業を9月・10月・11月の計4回実施し授業後、研究協議会を開催した。 ④-2 授業参観週間を6月・10月に各2週間ずつ設定した。10月にICTを使った授業を校外にも公開した。授業参観シートを作成し、意見交換を行った。	①生徒の授業満足度調査 89.0% (満足・おおむね満足) ② ICT を活用した授業はすべての科目において1人3回以上実施した。 ③授業での活用率は、普通教科では50%以上であったが、専門教科では、実習などで50%以下であった。 ④-1 研究授業 4回 ④-2 教員間の授業参観 2時間以上	B	(1) <b>B</b> 評価 (所見) ICT環境の整備に伴い、それを活用した授業作りが進んだ。生徒の学力や意欲については、依然個人差が大きい。個別指導や教員間の連携を密にしての対策で効果が出ている面も見られる。先生方の指導力向上の意識と意欲は高い。	GIGA スクール構想に基づき、ICTを使った授業を一層推進するとともに、教員及び生徒のICT活用能力を向上させる取組を行い、魅力ある授業作りに努めたい。 授業力向上に向け、研究授業や職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。	
		(2) 家庭学習の習慣化を促し、学ぶ意欲を高める。	①1日の平均学習時間 1.5時間以上	① 考査前1週間を家庭学習強化期間として、各自の学習を促す。学習時間調査を年3回実施する。	①期末考査3日前から1週間程度家庭学習時間調査を2回実施。3学期は3月実施予定。	①考査前・考査期間中の平均学習時間 1.9時間 (2回の平均)	B			家庭学習が定着している生徒はもちろん、そうでない生徒が学習時間を確保できるよう促していきたい。
		(3) 生徒の実態に合わせて、個別指導を充実する。	①1年生対象にコグトレの実施 -1年間 60日以上 -2学期末に振り返り ②生徒の成績状況調査 年間2回以上 ③生徒面談回数 1人3回以上	①コグトレを実施し、認知機能の苦手分野を把握し、機能の向上に取り組ませる。 ②成績不振者には補講や追試を行い、確かな学力を身につけさせる。 ③面談週間・家庭訪問週間を各学期当初に設定し生徒の実態を把握する。	①月・水・木の実施予定であったが、実施が不定期になったり、振り返りが行えず機能向上に取り組むまでにはいたらなかった。 ②放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。再考査、補講は計画的に実施した。 ③年度当初に2週間の家庭訪問週間を、各学期当初に1週間の面談週間を設定した。長期休業中は必要に応じて三者面談を実施した。	①1年生対象にコグトレの実施 -1 52回実施 -2 振り返り1回 ②生徒の成績状況調査 年間3回 ③生徒面談回数 1人3回以上	B			コグトレについては実施方法、振り返りの方法など見直していきたい。 基礎学力については、まだまだ十分ではないが、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。
		(4) 進路実現へ向けて、基礎学力を養成する。	①マナトレ (国・数) の実施 -1 実施回数 20回以上 -2 7級以上合格率 60%以上 ②基礎力診断・課題テストの実施 年間3回	①マナトレを活用し、国・数の学び直しを行う。 ②基礎力診断テストや課題テストにより、学力の実態把握を行い、基礎学力の向上に生かす。	①各ホームルームを教員2、3名で担当し、国語15分間、数学25分間の設定で継続的に学び直しを行えた。 ②各種テストから生徒の実態を把握することができた。	①マナトレ (国・数) -1 実施回数 22回 -2 7級合格率 国語83% 数57% ②基礎力診断テスト1回 課題テスト2回	B			今後も継続的に実施し、生徒の課題や弱点を見つけ基礎学力の定着につなげたい。

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価			
生活力の育成	(1)豊かな心を持ち自律した生活を送る力を育成する(生徒指導課)	(1)7つの心を養い、基本的な生活習慣を確立する。	①-1年間遅刻割合3%以下 -2身だしなみ再指導者5%以下	①三好校スタンダードを意識させ、あいさつ・遅刻・身だしなみの3点に重点を置き、指導を徹底する。	①無断での遅刻はないが、遅刻に対する意識の低さが見える生徒がいる。身だしなみへの意識は向上している。	①-1年間遅刻割合 1% ①-2身だしなみ再指導者 3%	B	(1) <b>B</b> 評価(所見) 無断遅刻もなく、身だしなみを整えて生活を送り、通学や学校生活では概ね安全に過ごしている。  (2) <b>B</b> 評価(所見) 感染症対策について様々な機会を通じた結果、生徒は朝の健康観察を含め基本的な感染対策を実践できている。一方、肥満の受診率が低く自己の健康管理には課題も見える。  (3) <b>B</b> 評価(所見) 全員面接のほかに自主的にカウンセリングを受ける生徒が多く、教員の生徒理解が広がるとともに、生徒が自己の課題に向き合う姿勢を支援することになっている。	・挨拶等の基本的なところから、清掃等の地域社会への貢献まで、幅広く生活につながる取り組みができています。	保護者との連携を密にし、登下校の生徒の時間や服装にも注視し協力していく。
		(2)交通安全に対する意識を高める。	①-1二輪車整備点検 年間3回 -2二輪車交通加害事故 0	①二輪車運転事故の防止に重点を置き、車両点検・実技指導・登下校指導・交通安全指導を行う。	①-1車両点検は春・秋の2回は専門業者による点検、毎月の学校安全の日には交通委員による点検を実施した。 -2二輪車の違反や事故はなかった。	①-1二輪車整備点検 10回 -2二輪車の交通被害 無し	A			車両点検は今後も確実にやっていく。また、自転車だけでなく、バイクでの実技講習を計画していく。
		(3)いじめ・暴力のない学校を目指す。	①いじめにつながるトラブル等の早期発見早期解決 推進	①生徒と教師の信頼関係を基にいじめのアンケート調査を年間3回行い、気になる事例には、組織的に対応する。	①いじめ調査の結果は大きな問題もなく、担任による面談や生活相談などで早期対応により、問題発生前に解決している。	①アンケート調査 3回実施	A			年度当初の新入生に問題が起こりやすいので、早期発見できるように面談や生活相談ができる体制を充実させる。
	(2)健康に生活を送る力を育成する(保健厚生課)	(1)組織的な感染症対策を進め、感染症を予防する。	①感染症対策についての保健だより・掲示物の発行 年10回以上	①保健だよりや掲示物を発行し、感染症対策について啓発する。 ②対策マニュアルに基づく確実な実施と対策の定着を図る。	①コロナが落ち着いている時期は感染症対策以外の内容で保健だよりを発行したが、代わりに集会での周知・保健委員の放送を実施した。 ②朝の健康観察と放課後の消毒を継続した。健康観察では、2学期から健康観察アプリを導入した。	①保健だより・掲示物の発行 8回	B		ICT活用を含め、より効果的な啓発や感染症対策の実施方法を検討する。	
		(2)健康課題を把握し、個々の健康管理を支援する。	①二次検診受診率 心電図 100% 尿、肥満 50%以上	①健康診断結果通知と個別の保健指導を実施し、健康課題を把握させ二次検診受診率の向上に努める。	①健康診断の結果通知を終了後すぐと3者面談時の2回実施した。個別の保健指導は、心電図、肥満・尿の二次検診対象者に実施した。	①二次検診受診率 心電図 100% 肥満 12.5% 尿 100%	B			肥満の二次受診率が低く、本人への定期体重測定や保護者への定期的な通知を実施し、受診率向上につなげる。
	(3)自分の課題や悩みに向き合い、たくましく生きる力を育成する(人権・相談課、進路指導課)	(1)教育相談(特別支援)活動を生徒理解と支援につなげる。	①スクールカウンセラーによるカウンセリング 全員面談の実施 年1回	①全員面談を実施し、生徒の実態を把握する。必要な生徒は個別のカウンセリングにつなげ、支援体制を充実させる。	①4月～6月に「君のこと教えてシート」を用い一人3分程度の全員面談を実施できた。	①カウンセリング 延べ219回 (うち全員面談86回 保護者面談16回)	A		・生徒一人一人の把握がよくできている。	次年度も全員面談を実施し、生徒実態の把握や個別カウンセリングにつなげ支援体制の充実に努める。
		(2)生徒の困難さを把握し、ニーズに応じた支援を進める。	①知能検査と学級満足度調査 1・2年生 各1回 ②特別支援教育研修会 年1回以上	①1・2年生に対して知能検査と学級満足度調査を実施し、生徒理解に努める。 ②ニーズに合った職員研修を実施し、アンケートにより次回内容の選択や改善に活かす。	①1・2年生に対して知能検査と学級満足度調査を実施した。 ②全教職員の研修はコロナ対策で避け、講師派遣を受けて相談会を2回実施した。	①学級満足度調査-QUで生徒の内面把握に役立っている。 ②少人数の相談会で和やかに進行でき、好評であった。	B			実施した支援の直後に結果が出ないことが多い。そのことを認識して粘り強く生徒に対処してもらえよう伝えることが肝要である。
		(3)ソーシャルスキルを向上させる。	①ソーシャルスキルトレーニングのホームルーム活動 各学年1回以上	①ソーシャルスキルトレーニングの観点からのホームルーム活動を実施し、社会生活で困らない経験をさせることや困ったときの対処法を実際に行動できるようにする。	①ソーシャルスキルトレーニングのホームルーム活動を1学期・2学期毎に1回行った。	①それぞれの学年で必要なソーシャルスキルを身につけるため、各担任が講義やワークショップ形式などクラスの実情に合わせて工夫して実施している。	A			今まで通り生徒の実態把握を適切に行い、生徒のニーズに応えられるツールを準備したい。

(4) 集団のなかで仲間と協力する力を育成する (特別活動課)	(1) 仲間づくり・協力をテーマにしたホームルーム活動を実践する。	①ホームルーム活動満足度 80%以上	①生徒の実態に合わせて、人間関係づくりを進めるホームルーム活動を工夫して実施する。	①人権学習やキャリア学習のホームルーム活動、また、人間関係作りのレクリエーション等をおして、学年やHR単位での活動を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てる事ができた。	①ホームルーム活動満足度 95%	A	(4) 評価 (所見) 特別活動を通じて、HRや学年を超えた交流を促し、仲間と協力する力を育成することができた。	・部活動は、少人数であるがよく頑張っている。	①望ましい集団活動や体験的な活動を通して実際の社会で生きて働く社会性や人間関係形成能力を身につけさせたい。
	(2) 生徒会による行事を企画実施させ、自主性を育てる。	①学校行事の満足度 80%以上	①生徒会活動としての行事(前日祭等)を、計画段階から、生徒主体の活動となるように支援する。	①生徒会役員が中心となり、生徒へのアンケート等、生徒の意見をくみ上げる工夫をして実施することができた。その中で、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする実践的態度を育てることができた。	①学校行事の満足度 83%	B			①現在生徒会主体の行事運営が実現しているため、より一層発展させていきたい。また生徒全体に、よりよい学校生活を築こうとする態度を身につけさせたい。
	(3) 部活動の活動内容を工夫し、加入促進、活動充実感を高める。	①部活動加入率 65%以上	①入部を奨励し、各部活動内容をホームページにアップするなど部活動の充実に取り組む。	①新入生全員が複数の部活動の見学や部活動紹介を通じて、各部に多少の魅力を感じているように思われる。しかし、「魅力的な部活動がない」「他にやりたいことがある」等の理由で新入生の入部率は44%にとどまった。しかし、未入部の生徒への声かけを行うことで入部した生徒も見られた。	①部活動入部率 34%	C			①入部者の部活動満足度は78%と比較的高い傾向を示した。しかし、入部率は昨年より15%ほど低下しているため、各部顧問と連携し、部活動の魅力発信に注力したい。
(5) 環境を守り、自他の命を守る力を育成する (環境防災課、保健厚生課)	(1) 徳島GXスクール活動を推進し、職員・生徒の意識改革と行動変容を促す。	①-1 地域環境美化活動年間3回実施 ①-2 校内美化活動実施率85%以上 ②地域資源保護活動年間2回以上	①校内外の清掃美化実践をする。 ②ゴミの分別100%を目指し、エコキャップの回収と活用を実践する ③毎月の電気使用量についてデータを配布し、こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。	①ゴミゼロ美化活動を30名以上の生徒が参加して実施。 ②ゴミの分別を啓発し、回収したエコキャップを社会福祉協議会へ納めた。 ③生徒・職員へ電気使用の啓発を行った。	①-1 地域環境美化活動2回実施 ①-2 校内美化活動80% ②エコキャップの回収180kg ③電気使用量啓発1回	B	(5) 評価 (所見) (1) 徳島GXスクールの計画に基づいた活動を行うことができた。  (2) 本年度は5名受験した防災士試験で2名が合格し、防災士活動を今後展開する。	SDGsに即した活動を展開し、持続可能な社会の実現のために活動を継続していく。	
	(2) 地域防災の担い手意識を持った防災リーダーを育成する。	①高校生防災士講習参加 3名以上 1名以上合格 ②地域防災組織との連携 2回以上 ③生徒対象AED研修実施	①学校全体で防災学習、防災訓練を進め、防災意識を高め、意欲ある生徒に防災士の取得を奨励する。 ②地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。 ③災害発生時の生徒・職員の生命・身体的安全確保を目的とした防災研修を実施する。	①全国緊急地震速報訓練で2回、教室での命を守る行動を1回実施した。 ②コロナ禍により地域との活動は実施しなかった。 ③職員・生徒を対象にした防災学習や土砂災害予防についての啓発を行った。	①避難防災訓練2回 ②地域との連携0回 ③防災研修2回	B			次年度は吉野川水防訓練が5月に実施され、三好校も参加予定にしている。できる限りの地域活動に参加し、防災意識を高めていきたい。
	(3) 学校安全に対する実践力を高める。	①救急法等の職員研修受講率 100%	①AED職員研修を実施し、救急救命の実践力を向上を図る。	①池田消防署によるAED、胸骨圧迫等の救急救命についての職員研修を実施した。	①職員研修(AED)職員参加率95%	B			①次年度以降も、開催し職員の救命救急における実践力の向上を図りたい。
(6) 差別を許さず安心できる生活を築く力を育成する。(人権・相談課)	(1) 身近な問題から差別を見抜く力を養う。	①-1 「学校人権の日」の資料作成 4回以上 ①-2 人権講演会・映画会などの実施 2回以上	①「学校人権の日」の取組や、内容の充実を図る。毎日の生活にある人権問題について提議し、身近な問題について考えさせる。	①障がい者・戦争による人権問題などを取り上げた。講師の方のお話を通して社会で起きている問題を身近に考える機会とした。	①「学校人権の日」資料作成 6回 ②人権講演会・映画会 2回	B	(6) 評価 (所見) 身近な人権問題や同和問題を、活動的な内容を取り入れた活動を通して学び、自分事として考え行動する力を養うことができた。	・人間関係の構築や人権問題等の学習が取り入れられており適切である。	社会にある様々な人権問題を取り上げ、その解決に主体的に取り組む態度を養う。
	(2) 同和問題学習や人権学習を深め、主体的に考え、問題解決へ行動する力を養う。	①同和問題についての学習 各学年1回以上 ②活動的な内容を取り入れた人権ホームルーム活動 各学年2回以上	①学校の活動内容や生徒の実態に合わせた内容で同和問題を学習する。 ②行動力の基礎となる知識と当事者になったときの行動力を身につけるホームルーム活動を実施する。	①就職・結婚というこれから生徒が直面する内容と識字問題を取り上げ学習した。 ②ランキングやロールプレイングなどのワークショップを行い、当事者となって問題の解決につながる活動を実施した。	①同和問題についての学習 各学年1回 ②禍活動的な内容を取り入れた人権ホームルーム活動 各学年2回	B			部落差別がなぜ起こったのか、その歴史と差別をなくす取組を学習し、差別がなくならないのはどうしてなのか、自分事として考える。

		(3)教員の指導力を高める。	①人権職員研修 年3回以上	①各研究会や研修会の内容をまとめ、教職員の教材研究に役立て、研修を通じ人権意識を高める。	①各研究会や研修会、講演会を案内し参加してもらった。また「人権の日」の資料や研究会の内容をまとめたものを配布した。	①人権職員研修 3回	B		教材研究に役立て、人権意識を高めるための研修の機会をもつ。		
重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価				
社会性の醸成	(1)主体的に進路を考え、進路実現に取り組む意欲と態度を育成する。(進路指導課)	(1)自己理解を進め、適性・能力を加味して、主体的に進路を考える。	①-1 キャリアパスポートの実施 3シート 年間8回以上 ①-2 進路希望調査 年間2回	①キャリアパスポートを利用した面談の実施や、目標を設定し、結果の振り返りを通して自己理解を深める。また進路希望調査を行うことで、進路に対する意識を高める。	① 具体的に記入しやすいようキャリアパスポートの様式を少し変更した。キャリアパスポートや進路希望調査を活用して、担任や進路課との面談を実施し進路指導につなげることができた。	①-1 キャリアパスポート 3シート 6回実施 ①-2 進路希望調査 2回実施	B	(1) 評価 (所見) <b>B</b> キャリアパスポートを活用することで自己理解が深まった。進路を考える上で進路ガイダンスや学校・職場見学は効果的であった。	・キャリアパスポートの進路への活用がよくできている。	進路希望調査の質問内容を見直し記入しやすいものに変更する。定期的に調査することで生徒の現状を把握し、進路実現につなげていきたい。	
		(2)事業所・進学先・ハローワーク等との連携により最新の進路情報を把握する。	①進路ガイダンス・講演会の実施 各学年 2回以上	①上級学校や企業・地元商工会議所やハローワーク等と連携し、各学年に応じた講演会やガイダンスを行うことで、様々な情報を入手し、進路選択の幅を広げる。	①各学年に応じた内容のガイダンス・講演会を対面で実施することができた。	①進路ガイダンス・講演会 1年 10月・12月・3月(予定) 2年 12月・1月・3月(予定) 3年 4月・6月・7月 実施	A		ガイダンスをきっかけに進路について考え、行動する生徒が増えるよう、工夫しながら今後も実施していきたい。		
		(3)進路実現のために行動する努力をさせる。	①オープンキャンパスまたは職場見学への参加率100%	①オープンキャンパスや職場見学に積極的に参加し、体験したことを進路実現のために生かす。	①第1希望である学校や企業への見学は概ね参加できた。	①オープンキャンパスまたは職場見学への参加率93%	B		複数の学校・企業を見学することで比較ができるので、第1希望だけでなく積極的に参加させていきたい。		
	(2)地域社会をリードする特色ある農業教育により、社会を担う意欲と態度を育てる。(農業科)	(1)地域連携活動に積極的に参加し、実践力と地域への誇りを育む。	①地域・企業・研究機関等と連携した取組 年間60回以上	①先進地研修や地域と連携した研究など専門教科の充実を図り、農業への関心・意欲を高める。	指標には届かなかったが、コロナ禍で制限がある中、年間55回の地域や研究機関との連携・協働した取組を実施することができた。	地域と連携した取組の推進 年間55回	B		(2) 評価 (所見) <b>B</b> 地域等の協力を得て連携活動や職業体験を推進し、生徒の主体性・社会性の醸成につながることができた。	・可能であれば、施設・設備を地域に開放する事で、学校の魅力化につなげてもらいたい。	これまで培った地域貢献活動の振り返りとICTを活用した連携活動を実践する。
		(2)学校農業クラブ活動により科学性・社会性・指導性を育成する。	①各種発表、各種競技での成果 県予選3種目以上入賞	①各学科、専攻での特色を活かした、専門性の深化と研究活動の充実を図る。	各種発表出場3部門において、全部門で最優秀となり四国大会へ出場する快挙を果たした。測量競技では県事務局として運営に尽力した。	学校農業クラブでの成果 県予選会入賞3種 四国大会入賞3種	A			地域の課題を把握し、その解決を目指す研究を充実させるとともに、各種発表に繋げていく。	
		(3)職業資格の取得により専門性を向上させる。	①校外での資格取得者 延べ人数年間50人以上 ②日本農業技術検定合格率 60%以上	①積極的な資格取得を奨励し、補習計画等、体制づくりに努める。 ②計画的な指導で日本農業技術検定の合格率を向上させる。	専門科目を中心に、授業で活用し将来に活かせる資格取得を推進した。農業技術検定では補習計画を立て、全農業教員が指導に当たったが、合格率は伸びなかった。	資格取得延べ人数 71名 農業技術検定合格率 27.3%	B			引き続き、合格率目標を定め、資格・検定試験の受験を推奨する。	
		(4)職業体験による職業観・勤労観の育成する	①地域・企業と連携した職業体験活動 各学科3日以上	①インターンシップの実施により、望ましい職業観や勤労観、主体的に進路選択できる力を育成する。	各専攻の特色を生かした職業体験を計画、実践することができ、地域の課題解決を目指すプロジェクト学習にもつながった。	地域・企業と連携したインターンシップ 食農科学科 5日 環境資源科 3日	B			・今後も積極的に資格取得に挑戦してもらいたい。	先進地研修や農業体験の充実を図り、就農への意識を高める。

重点課題	重点目標 (全校レベル)	下位組織レベル	評価指標	活動計画	評 価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
					活動計画の実施状況	評価指標の達成度	総合評価		
学校運営の充 実	(1) 教職員の活力を増進し、地域との協働により学校運営を充実させ、学校教育力を高める。(副校長、総務課)	(1) 学校運営協議会の意見を学校運営に反映する。	①各委員からの意見の聴取と、学校運営の改善と充実 推進 ②三校連携事業の実施 検討・推進	①学校運営協議会へ参画し、必要に応じてPTA・同窓会等とも連携し、学校運営に生かす。 ②三校連携事業の実施を検討する。	①昨年度に引き続き、HPの充実について・地域の人材活用について推進した。 ②コロナ禍の影響で、教育活動に制限があり、検討・推進に至っていない。	①地域連携、学校HPの充実等、学校運営に生かした。 ②コロナ禍の影響で実施できなかった。	B  B  B	(1) 評価 (所見) ホームページ更新はほぼ目標回数を達成する事ができた。教員負担については引き続き注視する必要がある。  ・情報発信を積極的に行い生徒募集、学校魅力化につなげてもらいたい。  ・地域連携の取組やHPが充実して素晴らしい。	本年度もコロナ禍の影響で、制約下での教育活動となったが、引き続き安全・安心な学校を土台とした学校運営を実践する。
		(2) 教育活動の広報、中学生への情報発信を強化し、進学希望者を増やす。	①-1 学校 Web ページの情報発信 年間100回以上 ①-2 教育活動等のマスコミ報道 年間10回以上	①学校Webページ、異校種間連携等での情報発信を積極的に行い、専門高校の魅力を広くアピールする。	①教育活動や感染予防の啓発等について学校HPを利用し、リアルタイムに発信することができた。	①-1HPの更新回数 92回 ※令和5年1月末現在 ①-2 マスコミの報道回数 7回 ※令和5年1月末現在			保護者、同窓生、中学生等の学校理解を推進するため、次年度以降も学校HPを活用し、生徒の活動を発信する。
		(3) 働き方改革を進め、教職員の活力を増進する。	①-1 教職員数の確保 学校図書館司書、進路事務等を確保することにより教員の負担を軽減する ①-2 有給休暇5日以上取得 100% 夏休5日取得 100%	①教職員の負担を軽減し、ワークライフバランス、休暇取得を奨励する。	①-1 年度当初より学校図書館司書、進路事務者を確保することができた。 ①-2 休暇取得状況をシステムにより確認することで、有給休暇・夏休の取得を定期的に推奨した。	①年度内に学校図書館司書及び進路事務の雇用で教員の負担軽減につなげることができた。 ①-2 有給休暇5日以上の取得率86.4%であった。 夏休の1人当たりの平均取得日数は4.8日であった。			出退勤システムを活用し、職員の勤務実態を不断に把握するなど、効率的な業務執行体制の確保に努める。